

2026年度 第1回但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録（要旨）

日 時 2026年8月7日（金）午後2時～4時
場 所 豊岡市役所本庁舎 庁議室
出 席 者 10名中8名（うち1名代理出席）
事 務 局 豊岡市（市長公室長、経営企画課長、経営企画課長補佐、経営企画課主査）
関 係 市 町 養父市（経営政策・国家戦略特区課）
朝来市（総合政策課）
香美町（企画課）
新温泉町（企画課）
オブザーバー 兵庫県但馬県民局、兵庫県市町振興課

◎報告事項

会長 まず、報告事項の「(1) 定住自立圏構想について」、事務局から説明をお願いします。

<事務局より、資料2に基づき定住自立圏構想について説明>

会長 事務局の説明内容につきまして、ご意見やご質問等がありましたらお出しただきたいと思います。（特に意見・質問等なし）特にないようですので、続きまして報告事項の「(2) 第3次共生ビジョンの達成状況について」、事務局から説明をお願いします。

<事務局より、資料3に基づき第3次共生ビジョンの達成状況について説明>

会長 説明内容につき、ご質問等がありましたらお尋ねいただきたいと思います。ご質問やご意見はありませんでしょうか。（特に意見・質問等なし）特にないようですので、次第の「6 協議事項」に移らせていただきます。

◎協議事項

会長 最初に「(1) 第3次共生ビジョンの変更について」、事務局より説明をお願いします。その後、意見交換できればと考えていますのでよろしくお願いします。

<事務局より、資料4に基づき第3次共生ビジョンの変更案について説明>

会長 説明のありましたビジョンの変更案につきまして、ご質問やご意見等がありましたらお願いします。この共生ビジョンの内容変更にあたっては、この懇談会が協議・懇談の場ということで、この場で内容を検討していただく必要があります。皆さんいろいろな分野からお越しいただいていますので、当然その分野のことも結構ですしそれ以外のことも結構ですので、今後取り組みが必要だろうと考えることがあればご意見をお願いしたいと思います。

事務局 補足ですが、先ほど事務局から説明をさせていただきましたが、基本的には内

容変更というより、赤字の事業費のところを実績ベースに変更しているということです。今回、このように事業費を変更してよいかというところがメインになりますが、先ほどご説明したK P Iの実績のことでも結構ですし、この中の事業のことでも結構ですので、何か意見等が頂けるとありがたいと思います。

E委員 K P Iを変更するということはないのですか。

事務局 第3次ビジョンは今年度が最終年度ということになりますが、やはりこの指標ではなく違う指標で事業を見ていく必要があるということになれば、そのご意見を受けて変更する可能性もあります。

事務局 事務局に質問ですが、今年度が最終年度である第3次共生ビジョンの中身について、今からそれを変更するための議論をするということでしょうか。

事務局 今年度で第3次ビジョンは終わるので、第4次に向けてK P Iの見直しが必要であればそれを反映させていくことになりますが、内容によって急ぎ変えたほうがよいという議論になったときには、第3次の分も変えていく必要があるだろうと考えています。

E委員 この第3次を前提として、第4次に向けてのK P Iを新たに設定していくということですか。

事務局 次の「(2) 第4次共生ビジョンの策定方針について」のところで、2027年度からの5か年計画である第4次ビジョンについてご議論いただきたいと思いますが、基本的には今の第3次ビジョンの内容をもうそのままといいますか、とりあえず第4次ビジョンに持っていくということで、その上で第3次ビジョンの中で足りていないものですか、逆にこれはもう要らないのではないかといったところをご議論いただきたいと思っています。ですので、この第3次については一応今年度が集大成ということで、これでよかろうということであればそういったご意見ということをお願いしたいと思います。

D委員 第3次ビジョンの最終年度ということで、この5年間で、但馬全体として最も成果が上がった事業と十分な成果が得られなかった事業というのは、どのように評価されていますか。先ほどは良かったところだけの紹介だったかと思うので、設定はしたけれどもきつかったとか、ダメだったというところを教えてください。

事務局 K P Iだけでいうと、先ほどの成果指標の現状値の説明の中で「○」となっているところが、達成できているのかなと思います。一方で、医療の関係では難しいものもありますので、どちらかというとやはり人材不足の影響があるところで事業が難しくなっているのかなというのが、相対的に見ていて思うところです。交通の關係にしましても人材不足でなかなか運行が難しいですとか、先ほどC委員からもありましたが、猟師さんが少なくなっているのので有害鳥獣の關係でシカの捕獲数の実績も上がっていないのかなと。ただ、やはり3市2町でこういうビジョンを作っていますので、難しいながらもみんなで力を合わせてやっていけるような、次の第4次ビジョンにもしていきたいと思っています。

事務局 補足させていただきますと、私はこのビジョンに位置付けられてすごく良かつ

たと思っているのは専門職大学を誘致できたということなのですが、ただ、「豊岡の大学」みたいなことになってはダメだなということがあって、やはりしっかりとこの定住自立圏で位置付けて、但馬全体として支えていくんだということでやっていく必要があるのかなと思います。各市町それぞれが大学と共同研究の委託契約をしていて、但馬全体として専門職大学に関われているというのは、この定住自立圏に位置付けた成果かなというふうに思っています。一方で、バスのことも書いてあるんですが、なかなかそれが但馬全体の動きになったり利用者の減少や運転手不足に歯止めをかけたりということには繋がっていないというのは、ここで位置付けてはいるんだけど、それぞれ課題としては感じながらなかなか1歩前に出られていないところかなと思います。

D委員 この5年間で但馬の人口もどんどん減っているの、例えば医療のところで「人口10万人あたりの医師数」というKPIが未達成ではあるんですが、これはその年の人口に対しての見方なのか、それともある基準の人口に対しての見方なのか、その基準をしっかりとしないといけないのかなと思います。人口の減少率ということを入れた上でこれらのKPIを設定していかないと、ただ単に数字を追いかけて数字だけが出ているというふうに見えてしまうので。

あと、予算執行のところでこれだけの費用をかけてやっているということなのですが、それに対しての具体的な効果というのがちょっと見えていないのかなと思います。例えば地域住民の生活が良くなったとか、人口の流出が減ったとか雇用が増えたとか、やはり但馬全体で見た流れというものがもう少し検証されて、このビジョンに挙げられたことによって何かしらの効果があったというふうにしていかないと、せっかくやってきたことが十分に反映されていないというのも残念なので、予算を組むだけではなくて、予算を組んで事業を行った後、実際に住民の皆さんの生活環境がどう変わったかを評価できる仕組みができればと思っています。

事務局 この医師の数というのは人口10万人あたり何人なのかということですので、人口が減った中でも10万人あたり何人確保しているかという数字になっているはずですが。ただ、課題なのはおそらく豊岡病院の医師の数しか見ていないので、八鹿病院やその他の病院のことは入っていないというところは少し課題があるかなと思います。

D委員 10年後には但馬全体のドクターの数も町医者も減るということを聞いているのに、これを見ていると「まだ大丈夫だね」というような誤解を招くのではないかなと。豊岡病院や八鹿病院といった大きなところは細分化されてドクターの数は増えているのかもしれないですが、地域住民にとってはそういった大きな病院だけではなく、地域の町医者の皆さんが日頃の医療の支えになっているかと思うので、そのあたりの評価の仕方は今後の第4次ビジョンでは変えていただいたほうがいいのかなと思いました。

事務局 今、KPIは医療や教育といった分野ごとに設けているんですが、各市町で人口ビジョンというのを策定していて、何年後の目標人口はこれくらいという数値

がありますので、そういったものをうまく3市2町で取りまとめて1つの指標にできればとも思いますので、次の第4次ビジョンではそういった指標の持ち方についても検討させていただきたいと思います。

F 委員（代理） 先ほどK P Iの見方ということで医師数のお話がありましたが、同じようなことは私も思っていて、我々の行っている職員研修についても参加人数で見えていないんです。各市町の職員数も今後減らす方向にあるんでしょうし、その中でこの人数で見るのはどうなのかなと。やはり参加割合で見るとか、数だけでは判断できませんが研修のコース数で見るということにしないと、ちょっと指標の設定としてどうなのかなと思います。先ほど医療の話でもありましたが、例えば豊岡の医師会の開業医の方の年齢も大分高くなっていて、あと5年や10年もすれば人数がぐんと減って看取りも難しくなるのではないかという話も聞きますし、やはり全体的にK P Iの見直しは必要なのかなと思っています。そうでないと、次の第4次ビジョンの議論でもまた同じように「この指標で評価し続けるのはどうなんだろう」ということになると思うので、そのあたりの検討をお願いしたいと思います。あと、ビジョン本文のほうについても、そもそもの人口減少が予測よりも加速度的に早く進んでいますので、前例踏襲と言わずに見直しも必要なのかなと思っていますので、ぜひそこも考えていただければと思います。

事務局 貴重なご意見ありがとうございます。次の第4次ビジョンになると思いますが、基本的にはK P Iのことについても本文についても、事務局のほうで今日頂いたご意見を基に修正できるところは修正しますし、K P Iについてはそれぞれの分野の所管のところに意見照会も行っています。そういった形で次の更新をしていきたいと思っていますので、またそれぞれのお知恵をお借りできればと思います。

D 委員 2026年の目標人口が14万8000人ということなのですが、現時点でどれくらいなんですか。

A 委員 私が見た限りでは、兵庫県の6月1日現在の推計人口で14万1000人くらいだったと思います。但馬全体で言われるように、我々が考えている以上に人口減少のスピードは早いかなと思っていますし、特に今は患者数も思ったより減っているという状況があります。八鹿病院もそうだと思いますが、我々がいくら努力しても患者数はもうこの4月からすごいスピードで減ってきていて、そのあたりの原因は見極めていきたいと思っていますが、将来の見込みについてはシビアにやっていただきたいなというのはと思っています。

B 委員 八鹿病院の状況ですが、病院を受診されている方の大半が70歳以上の高齢者の方で、入院患者に至ってはもう85%くらいが70歳以上の患者さんになっています。ただ、将来的な推計を見ても向こう10年は75歳以上の人口は大きく変わらないという推計になっているにもかかわらず、現状は患者数が減っている状況で、特に養父市の入院患者数が減っているのが現状です。逆に豊岡市や朝来市の患者さんについては、あまり変わっていない状況にあります。

D 委員 人口だけで見ても、なかなか各年齢層の比率がどのように推移しているのかと

というのが、今ここに出ている数字では見えないので、これは次のビジョンへの提案にもなるかと思いますが、やはりいわゆる生産年齢人口ですね。どの層がどれくらいいてどう変化しているのかとか、地域内の就業者数や地域内総生産の数だとか、そういったもう少し細かいところの数字を具体的に示したほうがいいのかなど。多分、但馬全体の人口比率は全国的なトレンドとはちょっと違う形で進んでいるのではないかと私も感じるので、やはり生産年齢人口で働き盛りの人の数がどうなのかというのを見ていくべきではないかと思います。あるいは、高齢者が多くなれば医療のあり方も違ってくるでしょうし、急性期の医療を担うための豊岡病院や八鹿病院がそういう高齢者のための病院になってしまったのでは、なかなか採算も合わないのではないかと思いますので、今後は医療の中身ということでも具体的な数字を出していただければと思います。

事務局 先ほど事務局の説明で少し触れましたけれども、各市町、少なくとも豊岡市においては人口ビジョンというのを策定していきまして、過去から現在までの相当細かい人口分析を行って、将来の人口を推計するということをやっています。おそらく各市町もやっていらっしゃるって、第4次ビジョンにおいてはその各市町の推計人口を統合できれば一番わかりやすいと思いますので、そういった形で年齢構成や若年人口の推移、高齢人口の推移といったことも併せてお示しできればと思います。

D委員 そういのが見えると、多分5年後や10年後に人口がどう推移していくのかというのが見えてくると思うんですね。

事務局 ちなみに豊岡市の場合、5年ごとに5歳刻みの年齢区分で人口の社会増減を見ていくと、ほぼプラスマイナスゼロで減っていないんですね。一番減っているのが15歳から19歳で、20代で少し増えるんですが減った分が全部は戻っていないというのが毎回繰り返されているんです。そのスパイラルでどんどん減っている構造にあるという分析もしていますので、できれば次回それも併せてお示しできればと思います。

会長 ほかにご意見等ないでしょうか。

但馬県民局（代理） 何もないようでしたらオブザーバーからですが、第4次の計画策定に向けてもう検討されるということなので、このタイミングでお話ししたほうがいいのかと思ってお話しさせていただきます。各論なんですけど、先ほども触れていただいた芸術文化観光専門職大学の話です。今回、KPIが2つあって、臨地実務実習の受け入れ先の施設数と但馬内企業への就職者数ということですが、その就職者数の目標を毎年8人と設定しているのは、定員の80名に対する1割という考え方なのかと私は想像したのですが、これを達成しているか達成していないかということは、この大学が県立の大学として但馬にできたことの効果の1つではあるんだけど、これで効果が測れるのかというのはちょっと疑問に思っています。というのは、人によっては2025年度の7人という数字が多いと感じる人もいるでしょうし、これだけしかいないのかという方もいると思うんですね。実は先日、県民局であった某常任委員会でもこれが話題になりまして、私からは、就

職者数としては7人だったんですが、いろいろな実習という形でまちに入っているとか、その分がカウントされているかどうかはわかりませんが、就職という形ではないけれども起業されている方やNPOを立ち上げられた方もいらっしゃいますし、但馬外においても但馬の事業に関与されている方もいらっしゃって、測れないけれどもいろいろと大学の効果は出ているんです、という話をしました。いずれにしても数字としてはこれしかなくて、なかなか説明に苦慮したということもあったんですが、就職者数というのは一番わかりやすい数字なので次期ビジョンでもこれは押さえるべきなんだと思いますが、このビジョンにも位置付けられて専門職大学を誘致できて交付税も充てているので、何か大学が但馬にこういう効果をもたらしているということを説明できるような言葉やKPIというのは、次期ビジョンを策定する上で考える余地があるのかなと思っています。

G委員 私もあちこちでお話をさせていただくときに、やはり地元への就職者数というのは結構インパクトがあります。県議会の捉え方は非常に厳しめに言われていると思いますが、80人の定員で8人や7人が但馬に残った、それも1期目の8名は全て県外からの学生ですし、昨年度の7名のうち6名は県外からですので、そういった効果も含めてお示しいただくといいのかなと。また、先ほど但馬県民局のお話の中にもありましたが、但馬内就職者の8名・7名の中には起業した者もありますので、そういうことも含めて示していただくといいのかなと思います。相対的な私たちの受け止めとしては、就職者数というのは結構大きなインパクトがあるかなと思っています。

A委員 私も7人の就職というのは、その情報を聞いたときにすごいことだなと思いました。みんな県外からで、それが7人も地元に残ったというのはすごくインパクトがあると思います。私が個人的に大学のほうにちょっと寄らせてもらったときに、たまたま求人の情報が出ていたんです。イメージ的にはそういった歌って踊ってというようなことで、多分人を見てそういうのを出しているとは思いますが、もう結構名だたる企業が求人を出しているのを見て、それだけのことを但馬でやっているというのは、県の施策としてはすごいことだなという印象を持っていますので、そういった面で前向きな感じになるように見せていくべきではないかなと思っています。

事務局 委員がおっしゃるように、まず入学している学生がほぼ兵庫県の出身ではないという前提があって、その80名の方々の中から7、8人残っているというのはインパクトが大きい数字なんですね。兵庫県内や但馬の出身者で7人という話になると「それはどうなんだ」みたいなことになると思うので、やはりその数字の後ろにあるものも併せて説明しないとなかなか説明がしにくいなと、今のご指摘を聞いて思いました。

G委員 加えて、今の学生数は大体320人プラスアルファですけれども、兵庫県出身者が2割くらいで8割は県外からで、但馬からでいうと本当にもう数名ですので、そもそもそういった但馬地域外からの320人もの学生が豊岡や但馬にいるということ、それからその学生たちが実習などで地域にお世話になっていることも併せ

て示していただくと、少し理解が変わっていくのかなと思います。

D委員 どうしても豊岡を中心に学生さんがいるので、実習の受入先施設数も出ていますが、やはり新温泉町としては関わりがまだまだ薄いのかなと思いますし、そのあたりは各市町がどれくらいの関わりを持ってやっているのか。予算的には新温泉町も年間に250万ほどの予算を組んでやっていますが、本当に町にとってはどうなのかなとも思いますし、但馬全体への波及効果を見る指標としては、就職者数だけを見るのもやはり不十分かなというところですし、この実習の受入先施設数だけではない、何かもう少し具体的な市町が取り組むことのメリットみたいなものを出していただければありがたいなと思いました。

G委員 例えばですが、毎年、3市2町の合計で2000万ほどの予算で、各市町で3つから5つの事業を行っていただいています。どこかの資料にも出ていたと思うんですが、そういう取組みをずっと継続的にやってきて地域振興に繋がっている部分もあります。あと一番は、高校生に対するコミュニケーションワークショップということで、私学も含めた但馬の20校全てで、高校生に対して演劇的手法を用いたコミュニケーション教育を行っています。これは高校の先生方からも非常に評判が良いので、そういったことを出していただくのも1つの方法かなと思います。

E委員 G委員に伺いますが、このK P Iの8名というのは、率直にこんなものかなとお考えですか。

G委員 私ももともと但馬の出身ですが、8人という数字を初めて聞いたときは、正直なところ本当にたくさんの方が但馬に残ってくれたなという感じがしました。

E委員 それと、大学のカテゴリーが「芸術文化観光専門職」ですから、やはりそれに合った就職先ということになるので、全ての業種ということにはなかなかマッチングしない部分があるのではないかなと思うんですね。

G委員 全ての業種と言われると非常に難しいんですが、実際には但馬地域内の実習先の企業で、ものづくりの企業などにも行かせていただいていますし、温泉旅館とかIT企業、さらに全国でいうと本当に様々なので、必ずしも観光とか芸術文化に限ったところではないです。中でも、静岡県から来た学生が今年度豊岡市役所にも入庁していますし、但馬銀行や但馬信用金庫に行った学生もいます。そういう意味では、本学の学長が常に言っていますが、本当に「テーマパークから公務員まで」幅広く就職に繋がっていると思っています。

E委員 そうすると、但馬全体の受け皿ですね。例えば次の計画では目標を8人から10人にしようとか。

事務局 そこはいろいろと議論があったところで、就職してほしいという思いはあるんですが、逆に学生に選ばれる企業でなければならないという企業側・事業者側の責任もあって、それは「残ってください」とばかりも言えないなと。学生も現地実習に行っているいろいろと但馬を見ているので、そこで「ここに就職したいんだ」と思われるような事業所にならないと、なかなか残ってもらえないということでもあるということです。

会長 ほかにいかがでしょうか。第4次に向けて、前提となる数字を見直すのはもち

ろんですし、その数字を基に先ほどあった年齢構成のことやK P Iをどうしていくかということになると思います。お役所の都合のいいような指標を作るわけにはいきませんが、やはり関わっていらっしゃる方々の考え方というのは非常に大事だと思います。例えば但馬内企業への就職者数にしても、今の8人のままだと「何もしないでたった8人か」と言う方もあると思いますが、ただ、先ほどのG委員のお話を聞いていますと、やはりその8人の意味合いというのもあると思いますので、第4次に向けてはやはりそういった関係されている方々の意見や声を十分吸い上げていただいて、K P Iのあり方を考えていただくということをお願いしたいと思います。

では、次の「(2) 第4次共生ビジョン策定方針について」、事務局から説明をお願いします。

<事務局より、第4次共生ビジョンの策定方針について説明>

会長 今の事務局の説明につきまして、何かご意見やご質問がありましたらお願いします。

C委員 統計のこういった数字は公平でいいとは思いますが、せっかくこうして市町で連携しているので、実際に住んでいる人がどう思っているのかをアンケートで年齢層ごとに聞いてみるというのを定期的にやるのも1つの方法かなと思います。無償でとなるとなかなか応じてくれないかもしれないので、行政的にいいのかどうかはわかりませんが、何かしらポイント還元等の予算を付けてですね。実際、何が問題かというのは多分住んでいる住民がよくわかっているし、いろいろ出てくるものもあるかと思うので、そういった住んでいる人の意見も聞いてみるのかなと思います。「住んでみたい街ランキング」とかで関西エリアでは結構但馬の自治体がよく上位に来ているんですが、「住んでよかったかどうか」みたいなアンケートはなくて実際どうなんだろうと思ったりもするので、特に移住してきた人に限って聞いてみるのもいいのではないかと思います。私も実は30年前に神戸から来ました。親が脱サラして農業をやりたいかったので親が住んでみて、私は農業をしようとは思っていませんでしたが、ちょっと手伝うつもりでやってみたらよかったので、もうこのまま但馬で農業をやっていこうということで仕事になりました。「住んでみたい街ランキング」が高いというのはすごいことだとは思いますが、やはり最初のきっかけとか実際に来てどう思ったかというのはすごく大事な情報だと思いますし、住んでいる人には住み続けている理由もあるはずなんですね。やはり良いところや強みを伸ばすほうが、弱みをフォローするよりは輝けるのかなと。私は個人的には山があって海があって月が見られて、食べ物おいしくて水もおいしくて、当たり前のことかもしれないんですが、やはり長い間住んでいるとそういうことも忘れてしまうので、そういった意見が聞ける生の情報は大事なかなと思います。

事務局 但馬県民局に伺いますが、但馬全域で、同じ項目でアンケートを取ったりはされていないですか。

但馬県民局（代理）　どんな項目かというのは忘れましたが、ビジョンの達成状況を測る関係で、「こういうことについてどう思われますか」ということを、年次が変わっても項目を一緒にして追いかけていけるようにしている指標はあったと思います。どんな指標だったかというのは今すぐには思い出せないんですが、それは公表しているものですので提供はさせていただきます。

会長　いろいろなチェックの仕方も踏まえていただいて、もしさらにこういう項目も要るのではないかとということがあれば、そのあたりも県のほうにお願いできるのであればお願いしたいと思います。ただ、基本は今日挙がっているようにK P I が本当にこれでいいのかといったあたりで、先ほどF委員からあったようにあの数字ではダメだろうなと私も思うので、やはり第4次ではそのあたりから一度リセットしていただく必要があると思います。

事務局　K P I だけでなく各施策の取組み内容についても、第3次ではこういう取組み内容になっているけれどももう少し変えたほうがいいのか、ということも含めてご意見を頂けるとありがたいと思います。

E委員　第3次ビジョン本文の23ページから系統ごとにバス路線が出ていますが、これは補助金の実績値ということなのでK P I とはまた違ってくるんですが、冒頭に申しあげましたように、今、交通業界は運転手や整備士、それから運行管理の関係の人材が非常に不足している状況で、今後も一層厳しい状況になるのではないかと考えています。これは但馬に限らず全国的に問題となっているんですが、やはり持続可能な公共交通ということが大前提としてある中で、今いろいろな交通モードに取りかかっているところです。ただ、やはりスマートな交通の拠点をつくってそこから効率よく運行できるような体制を取りたいと考えているところで、交通に関係したものを集約してそこにそういう体制を持っていくということを、今後将来に向けて考えていきたいと思っています。その拠点というのは、今まさに熊本がそうであるように防災拠点というのが考えの1つでありまして、東日本大震災でも鉄道が寸断された際にバスで被災者を輸送したという実績等もある中で、やはりそういった非常時の災害輸送ということも含めた拠点というのを考えていかなければならないと考えているところです。今後、私どもも交通企業としてそのような方針を考えているところですので、またこの具体的な取組み内容もそれに伴って変更が生じる可能性も出てくるのではないかと思います。もちろん、ダイヤ・系統等を整理していく中で変更が出てくる可能性もあるということはお含みおきいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

事務局　今頂いたご意見を我々ももう少し詳しく聞かせていただく中で、具体的な取組みとして第4次で文字にするかどうかを判断させていただく中で皆さんにお諮りしますが、各市町のご意向もありますので、そちらにも照会をかけながら取りまとめていきたいと思っています。

D委員　次のビジョンで具体的にどういうところを重点的にしていくかということで、私の提案として5つあります。まず、地域の医療と生活交通の維持、これはもう今までもずっと出ている案件ですが、ここは重点課題として大事だと。次に、若

者・女性が働いたり起業できたりする地域づくりというのを入れていただきたい。そして3つ目は、中小事業者の事業承継と人材確保。今、人材が本当に不足しているの、但馬に人をどんどん入れて事業を回していかないと、事業者が減ればまちも衰退しますし、本当にそこで日常生活を送ることもできなくなるので、そういうところも連携して但馬全体で考えていただきたい。4つ目は、やはりこの但馬というのは観光と農業、そして食というものがうまく循環することで、但馬の魅力や但馬に住んでいる生活力ということに繋がるので、その循環を高めていただきたいと思います。あと、5つ目は行政ですね。やはり豊岡市が中心となって進めていただいていますけれども、もっと広域で、県を跨ぐくらいの勢いで連携するようにしないと、豊岡市の隣はもうすぐ京都府ですし、我々新温泉町からすると鳥取県の市町との連携協定もあります。今、この但馬定住自立圏の委員として来ていますが、私は鳥取県の市町とも連携中枢都市圏という形で関わらせていただいていますので、それぞれがそれぞれでやるだけでなく、どこかでうまくお互いに手を繋いで情報共有などができないかなと。やはり共通する課題もあると思うので、こういうことをしたら良くなったとか、そういう良いところを教えていただくことができれば、単独でやっている以上にまた新しい情報が得られるのかなと思いますので、特にこの5つを中心に置いたビジョンを作成していただければと思っています。

事務局

補足ですが、豊岡市ではいわゆる路線バス、全但バスが所有する車で全但バスの運転手が定期路線を運行するという形を維持し続けるのは少し限界があるなどという課題認識があって、例えば竹野と豊岡を結んでいた路線バスを廃止して、その後市と全但バスと社協、それから地域の方々の4者で新しい予約型乗合交通を運行しています。地域の方々の中から手を挙げた方がドライバーとして全但バスに雇用されて市が車を貸与して、予約は社協のほうでやっていただく「バス型日本版ライドシェア」という形です。きめ細かくオンデマンドで走りますし、乗降場所も従来のバス停よりも数が多いということで、非常に好評を頂いています。ぜひこういったことも但馬全体で勉強したり広げていけたりできればと思っています。

C委員

農業の業界でもスマート農業やAIなどが入ってきて、急激に変わることもあるのかなと思ったりしますし、養父市でもバスの自動運転の実証実験が行われていたりして、ひょっとするとそういったIT化が進むとよいことがあるのかなというのが多々あります。医療に関しても、直接は関係ないんですが「あけのペプロジェクト」といって、空き家になっていたたばこ店をクラウドファンディングで資金を集めて改装して、そこを野菜の販売や遠隔医療の拠点にしようということで、限界集落でできる地域コミュニティの維持みたいな社会実験もされています。そういうのを見ると、指数としては交流人口みたいに「どれくらいの人と関わっているか」とか、そういった指数が大事になってくるのかなと。要は孤立させないということで、集落に人が住んでいても交流が全然なくて見守りもなければ、何かあっても連絡がつかないということになるので、ネットとかい

ろいろな形で繋がっていくというのが大事なのかなと思っています。例えば、「おおやアート村BIG LABO」という施設はアーティストのためのアトリエなんです、「見守り電気」といって、電気の使用量の変化を確認するという会社の事務所が入っていて、その人が生活できなくなっていれば電気使用量の変化がなくなるのでそれを検知するサービスを行っている会社なんです、そういったところもあります。やはり指数をチェックする方法はいろいろあると思いますし、この5年間で多分急激に世界は変わると思うので、それに合ったチェックポイントがあるといいかなと、何がよいのかはちょっとまだ想像できませんが、そんな意見です。

A委員 先ほど医師数という指標がありましたが、現在のKPIでは「人口10万人あたりの医師数」ということになっているんですが、最近は厚労省から「医師偏在指標」というのが何年かごとに公開されていて、令和8年4月の時点では、兵庫県はもう医師多数県になるということで国のほうでは位置付けています。但馬はどうかと言いますと、但馬もこれまでは医師少数区域というカテゴリーだったんですが、人口減少等いろいろと要因はあると思うんですが、指標的にはもう医師多数区域ということで区分されるようになりました。これは何かというと、いわゆる国が見ている人口あたり、人口というのは流入人口も入っているんですが、そういったものを加味しても、規模でいうとエリア的に医師は多いというのを国のほうで指標として出しているんで、我々が今危惧しているのは、これによって国や県の医師確保の施策が滞る、ないしは遞減していくという可能性が十分にあると。これは鳥取など同じように人口が著しく減っているところについてもこういう指標がすでに出てきているので、それに対して我々豊岡病院も含めてどういったことがよいかということをお早急を考える必要があるかなと思っています。単純に人口あたりの医師数だけで見るとそういった国の指標にも負けてしまいますので、今、我々の医療が抱えている現状や実態に即した形の指標というのを考えるべきではないかと。もともと但馬全体で医師が不足しているという状況は豊岡病院もこれまで強く言ってはきたんですが、単純にその医師偏在指標だけでいくと、すでにもう医師多数地域だということに格付けされていて、兵庫県内でも神戸、阪神、但馬、淡路、播磨、姫路、東播磨ということで、但馬は県内でも指標的には高い状況になっていますので、こういったことも考えながら、いろいろな施策や対策をやっていかなければならないと考えているところです。

それから、医師数というのは評価の1つではあるんですが、地域住民の方にとってはやはりクリニックなどの日々身近な病院の有無が生活にとっては大きく影響すると思いますので、例えば実際の病院の数やクリニックの数を市域や旧町単位くらいで見せていくというのも1つの方法かなと思います。それが増えるのは難しいかもしれませんが、どういったものをカバーできているかというのを見ていただいてもいいかなと思いました。

E委員 医師数もなんですが、当然、お医者さんは専門医がいっぱいいますので、専門医のバランスというのはどのようにお考えですか。

A委員 おっしゃるとおりで、医師も今は専門分化していますので、実際、豊岡病院も医師は増えているんです。10年前は100人くらいだったのが今は160人ほどに常勤医が増えているんですが、それだけいても夜もやっているということは、やはりそれだけ専門分化して医師としての業務が増えてきてしまっている。なので、いくら入れたとしても、実際には経営も含めて逼迫しているという状態が続いています。しかも、豊岡病院は夜間の救急も含めてしっかり対応させていただいていますので、常勤医だけでは足りずに、京都大学や神戸大学などからの応援医師も84人いて、相当なマンパワーを費やして運営しているという状況にあります。なので、単純にその医師数だけで比べるとというのはなかなか難しいですし、それを目標にするというのもどうなのかなと。あまり増やすと今度は経営的にも難しくなるので、我々としてはなかなか発信しにくいんですけれども、そういった医師の働き方というのは、今非常に難しくなっている状況にあります。

B委員 医師数についてですけれども、八鹿病院組合では現在40名弱の医師数なんです。10年前までは60名近い医師がいた時代もありました。新病院を開設したときには420床あったものが、医師数では現段階で20名程度減ってしまっていて、先ほどE委員からご指摘があったように、専門診療科はあっても、例えば脳外科医や産婦人科医がいないという形で、八鹿病院では分娩を休止して、豊岡病院にあります但馬こうのとり周産期医療センターに集約していただいたという経緯があります。なので、単純に医師の頭数だけで話をしても、もう医療自体が生活インフラの1つなので、診療科によっては全くその地域に提供できるところがなくて、遠くまで受診してもらわなければならない状況が発生しているというのが現実だと思います。実際、八鹿病院でも紹介で神戸のほうに行っていたりとか、循環器系でしたら姫路のほうに行っていたりしていますので、あまり数は多くないので大きな声にはならないですけれども、住民の方々に負担を強いている状況というのは間違いないと思います。

会長 いろいろと専門分野の方の声を聞かせていただくと、豊岡病院はそれでも医師は増えているのかと改めて思ったりもしました。やはりそれぞれの分野から来ていただいている方々の生の声を十分聞かせていただく良い機会だと思いますので、皆さんのほうからそれぞれの分野で何かありましたらお願いしたいと思いますが。

C委員 猟友会で呼ばれていますので狩猟に関してなんですが、指標でシカの捕獲頭数とシカの農業被害面積というのが出ているんですが、本来の目的でいうと有害鳥獣による農業被害を防ぐというのがメインなので、被害額というのが目的の数字なのかなと思います。今、捕獲頭数は「×」になっていますが、被害面積は「○」なので、目的は達成しているんです。ただ、シカの生息頭数もやはり幅があって推計値ですし、実際の被害額に合わせて捕獲頭数を管理しますので、少ないから達成していないというわけではないということです。あと、被害はシカだけでなく、例えば今でしたらカワウが増えたりカラスが増えたりして何とかしてほしいということがあって、時代によって対象鳥獣も変わってきますので、やはり被害額のほうが、何でやられても金額は同じなので目標を達しているかどうかはわ

かりやすいのではないかと思います。多分、被害金額は統計としてずっとデータも取っているはずなので、そちらのほうが効果としてはわかりやすいかなと思います。あとは猟師の人数を知りたいとかもあるんですが、今、確実に足りていないので。猟友会としてはそんな感じです。

D委員

私も農業をしている関係で毎年シカには苦勞しているんですが、最近は県や市町の対策で、捕獲するだけではなくて守るという意味でワイヤーメッシュを設置して、被害を極力減らしていくような支援をいただいていますので、被害面積は減っているんだと思います。ただ、昨年まではシカの頭数は新温泉町でも非常に増えていましたが、昨年の暮れからの大雪の関係で、実感として全体量は減っていますし、実際に捕れていません。私のところでも狩猟している従業員がいて、昨年は30頭くらいシカを捕まえたんですが、今年はまだ2頭しか捕れていなくて、それくらい今年は絶対量が減っているのではないかと思います。ですので、ただ単に捕まえた数だけではなくて、それを守ろうとする仕組みを国や県から支援を頂きながら今やっていますので、そういう整備された地域が増えれば増えるほど、被害はどんどん減っていくんだと思います。ただ、やはり但馬は自然が豊かなところで、そういう自然の中で我々も生活しているということで、なかなか中心部にいらっしゃる方にはそういった獣害の苦勞などはわかりにくいかなと思いますけれども、本当に数は増えています。おそらく、今後もそういう駆除プラス守るということを毎年やっていって、新温泉町でも面積はどんどん増えていますので、実質の被害ということですね。農業共済等の被害額も少なくなっているかなと思いますし、申請者数も少ないというふうに聞いています。なので、これをどのように見るのかということで、今までは本当に被害が大変だと言って、その成果で檻を設置してもらったりフェンスをつけていただいたりということに繋がったのだと思いますが、獣害だけでなく、農業振興という意味でまた違った観点で何か支援策を考えていく必要があるのではないかと思います。米価や野菜の価格も昨年までは上がっていましたが、今年は多分大暴落するのではないかとされていますし、米農家も「もうこれでやめようかな」という方もいらっしゃるということも聞いていますので、そういう農業振興も含めた中で、何かもう少し支援する方向性を示していただけるとありがたいなと思いました。

会長

事務局に確認ですが、今、協定を結んでいる各市町の担当の方と調整中ということですが、今日の懇談会で出た意見や、この場に出ていないような意見もあると思うんですけれども、それはもう市町の行政担当者である程度素案を作ってしまうということでしょうか。当然、今日の意見もある程度吸い上げていただけたらと思うんですけれども、そのあたりで委員の皆さんに事前に確認したり何かそういう手順を踏んだりという考えはあるのでしょうか。

事務局

今日頂いたご意見を基に、基本的には豊岡市が素案を作って各市町に照会をかけますが、「ここをこう直してください」といったことがきくと出てくると思います。例えば、有害鳥獣の関係は豊岡市と養父市の2市しか出ていないんですが、例えば香美町や新温泉町も入ってくるとなると、また協定の締結が必要になって

きて議会の議決といった事務的な作業も必要になってきますので、そのあたりも調整しながら進めていきたいと思っています。

もう1点、基本的にこの懇談会は年に1回集まっていたいただいて終わりというのがこれまでだったんですが、今度は第4次ということで新たなビジョンになりますので、今日頂いた意見はある程度そこに盛り込むには盛り込みますし、いろいろと事情があって盛り込めないところもあると思いますが、3市2町で作成したビジョンの素案を見ていただく機会をもう1回持ったほうがよいのではないかと、事務局としては思っています。また皆さんにはご足労をお願いすることになるんですけれども、もう1回開催ということでもよろしいでしょうか。

E 委員
事務局

その素案の改定や変更というのも考えられるのでしょうか。

3月末にはもう策定しなければならないので、例えば12月か1月に皆さんにもう1回来ていただいて、どうしてもということがあれば見直せるかなと思いますが。

会長
事務局
会長

協定変更するとすれば何月の議会ですか。

3月かなと思います。

新たな項目で協定を締結するとしても、3月議会でそれは上げるということですか。

事務局

そこも各市町と調整しなければなりません、豊岡市であれば3月かなと思います。

会長

ただ、協定を結んでいなくて関係ないという市町であっても、ここはこうしたほうが良いという案がある可能性もあるので、やはり協定を結んでいる項目以外の部分も見ていただく必要があるのではないかと。なので、議会も含めた事務的な部分をどう進めていくのかをまた相談していただいて、それに間に合うように逆算してこの場をいつ設けるか、委員の皆さんも当然いろいろとお忙しい中なので、日程調整していただく必要があると思います。やはりもう一度見ていただいて、「ここはこうしたほうが良いのではないか」ということを、それぞれ専門分野の方のご意見を伺ったほうが良いと。

事務局

どういう形になるかはわかりませんが、例えばこの第3次の内容を第4次に一旦全部移して、変更した部分を赤字、新規追加した部分を青字にするなどして、見やすいような形で皆さんにもう一度見ていただく機会というのを、今おっしゃったように逆算して、各市町にも意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

会長

よろしいですかね。そうしてもらったほうが、また1年後に集まったときに、「これだったなあ」というのも出ずに、委員の皆さんも意見が言いやすいと思うので、ぜひそのように事務のほうを進めていただきたいと思います。

F 委員（代理）

冒頭、市長公室長から、人口減少が進む中で但馬をどう支えていくのかが課題だという話がありました。D委員からありましたいろいろな課題もずばりそのとおりだと私も思っていて、特にエッセンシャルワーカーが少なくなってくるとのことと、買い物難民や公共交通機関の問題も重要なことだと思っています。そういった喫緊の課題が見えている中で、このビジョンでは、最初は但馬こうの

とり周産期医療センターの整備、第2次・第3次では専門職大学の誘致と連携ということでやってきたと思いますが、次の第4次では何を肝にするのか、何かそういう思いがもしあれば教えていただきたいと思います。

事務局

現在、但馬全体で国の交付金が大きく必要なものというのは今のところ想定していない状況でして、今のままですと、これを新たに第4次で加えましょうというものがあるわけではないです。ただ、先ほどご指摘があったように、交通のことをしっかりやっていこうとか、エッセンシャルワーカーの確保といったところは皆さんそれぞれお考えがあると思いますので、そういったご意見も頂きながら、新たに位置付ける必要があるものがあれば加えていきたいと考えています。今、事務局としてこれを第4次で位置付けたいというものを持っているという状況ではないということです。

会長

ほかに何かご意見はありますか。

市町振興課（代理） オブザーバーからですが、事務的な手続きというところで。先ほど年度内のスケジュールについて共有されたかと思いますが、冒頭に申し上げましたように、この定住自立圏の取組みについては特別交付税の財政措置がされるんですけども、基本はこのビジョンの中に記載のある事業について措置がされるというものになります。今、特別交付税の措置を受けている事業については基本あるんですけども、令和3年度に財政措置の見直しがされていて、このビジョンも令和3年度の末に作られているのでその財政措置の内容をきちんと押さえられていると思うんですけども、その後に追加になった包括部分以外の病診連携の負担金や外部人材の活用、へき地医療など、包括以外の部分で措置されるものもあるんですね。もし次の第4次ビジョン策定にあたって、「こういうことを考えているんだけど、新たな財政措置が受けられるのか」とかそういった相談があれば、ビジョン策定前に相談いただければと思います。資料2の「定住自立圏構想の取組み」の右下のところに、中心市が1億800万、近隣市町が1800万と出ていますが、これのプラスアルファの部分というのが、令和3年度のときにそれぞれ項目としてあるかと認識していますので、その部分でプラスの財政措置を取りに行けるのか行けないのかという部分も、相談いただければ市町振興課として相談に乗れるのかなと思います。

事務局

それについてですが、例えば、ある市がへき地医療について事業を考えていて、それに対して交付税措置されるかどうかを気にしているとすると、その市が直接市町振興課に問い合わせ調整すればよいのでしょうか。それとも中心市の豊岡市からでしょうか。

市町振興課（代理） 基本的にはこのビジョンに書かれている事業について、各市町いくら事業費を出したかというのを基礎数値で回答するのですが、なくなればその事業費はなくなるんですけども、上限額が1800万とありますので、当然、2000万や3000万負担していれば、その中の100万、200万が減ったとしても上限額を超えてしまっているので影響はないと思うんですけども、この1800万以外のところですね。こういう事業をビジョンに書いて定住自立圏として取り組みたいんだだけ

どというようなものがあれば、それはこの1800万の外で措置が受けられる可能性はあります。先ほど医療の話が多かったので、すでにいろいろとやっていたりしゃるかもしれませんが、今、財政措置の要綱を見ていると、病診連携やへき地医療の関係は上限が800万くらいでそれほど大きな額ではないんですけれども、プラスアルファで取りに行こうとしたときに、今やっている部分でビジョンに盛り込む意味はあるのかなと思います。その点については、定住自立圏の事務局としてこういったものもあるとか要綱も改めて共有させていただきますし、事業の中でこう位置付ければこれで読めるかというのを総務省に確認して、そういう調整は市町振興課としてできるかと思います。

会長 事務局として手抜かりのないように進めていただきたいと思います。先ほど但馬県民局からもご意見を頂きましたが、改めてオブザーバーとして何かありましたら。

但馬県民局（代理） 今日、この懇談会に初めて出席させていただいて、各分野でご活躍されている方々の生の声をお聞きすることができて、大変参考になりました。冒頭で申し上げましたが、私は27年ぶりに但馬に帰ってきましたが、やはり非常に暮らしやすく、近所の方々ともつき合いやすく、帰ってきてよかったなど改めて思っています。ただ、仕事として但馬県民局に赴任して、先ほどからお話に出ていますけれども、数値的なところを見ると非常に厳しいというのをリアルに感じています。去年の10月1日現在の国勢調査の速報値で、但馬全体ではこの5年間で1万3792人減ったということで、これは香美町の人口と同程度の規模の人数がこの5年間で減ってしまったという、非常に厳しい数値が厳然としてあります。皆さんもよくご存じのことと思いますが、特に出生数が但馬全体で600人を切ってしまうというのも非常にショッキングで、令和7年は597人の出生しかなかったということで、この子たちがずっと但馬にいたとして、一体何クラスできるんだろうと想像すると、本当に厳しい状況だなということを改めて思っています。今日は出席できませんでしたが、但馬県民局長も常にこの数字を用いて、このように人口減少する中でもどのように活力を維持するかということを、とにかく一生懸命考えて知恵を絞るよう局内でもたびたび言っている状況です。市町も県も、もう潤沢にお金がある状況ではありません。以前のように行政がお金を出して何かカバーするということはなかなか難しいので、選択と集中で必要なものに集中していくしかないのかもしれませんが、そういう状況である中で、やはりこれからは知恵や工夫ですね、委員の皆さんもそうですが各地域で活躍されていていろいろな考えを持っていらっしゃる方々と繋がっていくことが必要なのかなと思います。そういう方々が繋がって、そのネットワークから得られる知見や能力を活用して、人口減少はもうトレンドとして致し方ないとしても、その中で但馬として活力をどう維持できるのかということを、県民局としても一生懸命考えていきますけれども、皆さん方や市町の力もお借りして、何とか但馬の活力を維持していきたいと思っています。このビジョン策定もその動きの1つですけれども、引き続き皆さんのご協力をよろしくお願いしたいと思います。

会長

ほかにご意見はありますか。もう最後になりますが。

D委員

何か但馬はすごくダメなまちみたいなイメージを、実は我々が子どもたちに植え付けていたのではないかということを私は思っていました、データ的によく見ると、これだけの観光客が来ているエリアってないんですよ。そして豊かな地場産品があったり、人口比率の割には地域内総生産量も多かったりと、但馬が持っているポテンシャルは非常に高いんだということを、我々が発信していかないといけないのではないかと考えています。但馬がダメなのではなくて、そのポテンシャルをうまく生かしきれていないだけであって、先ほど但馬県民局からあったように、繋がりネットワークを持ってしっかりやっていけば、但馬はまだまだ輝けるよと。ここに住んでいる人が自信を持ってここに住んでいる誇りをしっかり持たないと、「どうぞ都会に出て頑張るね」とみんながそう言っているから人がいなくなっただけで、ここに住んで頑張っていっちゃる方は但馬のことが好きだし、多分学生さんが残ったのも但馬が好きだからなんだと思うんですよ。もう職業ではなくて「但馬で生きる」ということを選択されたのではないかと思いますので、但馬で生きる喜びを我々がきちんと共有していくことが大切なのかなと。それは不便さは当然あって、現実をいうと都会のほうが便利です。でも、利便性よりもここに住む幸せ感のほうが高い人をとにかくここに残していくということをこのビジョンの中にも掲げていかないと、ただ単に「不便なところを何とか解消しましょう」だけではいけないのかなと思います。本当に但馬には素晴らしい方々がたくさんいらっしゃいますので、ここに住んで頑張っている人たちの姿やそういう方々の情報をもっと発信して但馬の魅力を子どもたちに伝えていけば、今働いている人たちの誇りや自覚にも繋がって、私は人口減少も止められるのではないかと考えています。私の思いを伝えただけになりましたが、本当に「但馬って素晴らしい」とみんなが声をそろえて言えば、そうだなと納得もしてもらえるのではないかと考えていますので、嘆くよりも前を向いてみんなで進めていくことができればと思っています。

会長

ありがとうございました。今日の協議事項はこれで終わらせていただきたいと思います。